

1.評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0490300027
法人名	有限会社 サンテック
事業所名	グループホーム 清水沢あさひ園
所在地 (電話番号)	塩釜市清水沢三丁目11番31号 (電 話) 022-361-4711

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成21年 3月26日

【情報提供票より】(平成21年 3月 6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20年 3月 26日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	2階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,166	円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	1 名	要介護2	10 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 68 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮城利府掖済会病院 ササキ歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは閑静な住宅街の中にある2階建ての建物で2ユニットのホームである。ホームの基本理念は「笑顔の和・チームの和・地域の和・慣れ親しんだ町での暮らし・その人らしく生き活きた暮らし・安らぎのある暮らしを大切にします」で、その他にその月の介護の重点目標を掲げており3月は「入居者様の会話や言葉に耳を傾けよう」である。このホームではチームケアを大切にしており全職員が同じ方向性を持ってケアに当たっている。地域との交流に関しては、防災訓練時に近隣の住民が参加したり漬物や菓子の差し入れなどがあり、ホームでは地域の清掃活動などを行い連携を密にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成20年3月26日の開設であり、今回初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員全員に書いてもらいそれをリーダーがまとめ管理者が点検した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族会会長、町内会長、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、管理者で構成されている。今年は6回開催している。議題は前回議事録の承認、入居状況の報告、行事内容の説明、その他として質疑応答など双方向的に話し合いを行いサービスの質の向上に生かしている。会議を開催することで、より地域との交流、支えあいが広がっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来所時声がけし、日常の様子、健康状態など話し合っている。又、おたよりを発行し請求書送付時同封している。苦情処理等相談窓口については公的な窓口はあるが第三者委員がないので運営推進会議で検討し重要事項説明書に明記していただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流は盛んで町内会に入会しており、地域の一員として清掃活動や、ホーム便りを町内会に回覧したり、防災訓練に近隣住民が参加協力し、夏祭りや流しそうめんなどの行事にも参加している。マジックショー、踊り、歌などのボランティアも来訪している。今後小・中学校にも協力を依頼する予定である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔の和・チームの和・地域の和・慣れ親しんだ町での暮らしその人らしく生き活きた暮らし・安らぎのある暮らしを大切にします。」を掲げ、地域密着型の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に皆で理念を唱和し一日のケアの基本としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム便りを町内会に回覧したり町内会の一員として清掃活動に協力している。マジックショー、踊り、歌などにボランティアが来訪してくれる。今後、小・中学校にも協力を依頼する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の実施にあたりすべての職員が自己評価に取り組んだ。それにより多くの気づきが生まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会会長、町内会長、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、管理者で構成されている。今年は6回開催している。議題は前回議事録の承認、入居状況の報告行事内容の説明、報告内容の質疑応答など双方向的に話し合いを行いサービスの質の向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーに就任しており相談、意見、連絡などを行いサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪したときに声を掛け、必ず入居者の状況を伝えると共に話しあいをしている。すべての家族に対して、毎月1回は手紙で入居者の状況を伝え意見や要望を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情を手紙や来訪時に聞いている。苦情処理に関しては行政やホームの窓口はあるが第三者委員が入っていない。	○	家族の気持ちになって聞いてくれる第三者委員を、運営推進会議のメンバーに相談するなどして委嘱し、重要事項説明書に明記していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員のなじみの関係を重視し今まで異動はなかったが、今後も職員の異動を最小限にするよう努めていただきたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には日常的に学ぶことを推奨し研修会にも参加できるようにしている。職員が外部の研修会に参加した場合には、その受講内容をすべての職員が共有できるように報告する機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク、NPO県グループホーム協議会、ブロック集会などを通じて同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入居する前に職員が会いに行ったり、ホームに遊びに来てもらったりして本人が職員や他の入居者やサービスになじみながら本格的な入居に移っていけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活の中でできることは一緒にしており、教えられることはたくさんある。お掃除や食事の後片付け裁縫など協力しながら生活できるよう日常的に支えあう関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を中心に入居者一人ひとりの思いや希望は、東京センター方式のアセスメントにより把握し、思いや意向にあわせた支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実態調査の際に本人やその家族の思いや意見を聞き、すべての職員で話し合っ本人が地域社会の中でその人らしく暮らし続けていけるように必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い家族の了解ももらっている。状況の変化があるときは現状に即した計画に修正している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望、状況に応じて通院や特別な外泊、外出など柔軟に対応している。地域の高齢者のショートステイなどの実績はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	このホームは入居者のかかりつけ医や医療機関と良好な関係を築き本人やその家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	このホームは入居者が重態に陥ったり終末期を迎える場合の「最期の看取り」にかかる項目をサービス契約書に明記しているがまだ経験はない。将来取り組むべく準備中である。		
ho-ha					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を尊重して呼びかけ本人の承諾を得た上でその人の居室に出入りしている。職員の入居者への態度やかかわり方がゆったりとしているが声のトーンの高さが気になった。個人情報の保護はきちんと管理されている。	○	職員の声のトーンが高いと認知症の入居者は不穏になることがあるのでやわらかな言動をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の生活習慣に配慮して起床、入浴、食事、就寝などの日課的な行為を本人なりの速さで行えるように柔軟に対応し、入居者の一人ひとりのその日にしたいことを把握して入居者が主人公になって暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の力を活かしながら調理、後片付けなどを一緒に行っている。又、入居者の嗜好を考慮した食事を提供している。職員も一緒に同じ食事をし、和やかな雰囲気の中で職員が入居者にさりげなく支援の手を差し伸べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。職員は入居者のこれまでの生活習慣や好み、希望を聞いてその人に合った入浴ができるように支援している。入浴を嫌がる人もいるが職員が言葉かけを工夫して入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はそれぞれの入居者の生活習慣、希望、持っている力をふまえて自分の役割や楽しみごとや気晴らしの機会をつくられるよう手助けし、さらには活気作りや心身の居場所作りに努めている。入居者の主な楽しみごととして編み物、裁縫、書道、ぬりえ、将棋、カルタなどがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者がなじみの店や場所に出かけられるよう支援している。歩行に困難がある場合は車や車イス、車イス積載車などを利用して戸外に出ることを積極的に働きかけそれを支援している。そのときの状況に応じて個別に多様な外出行動をとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵をかけていない。職員はそれぞれの入居者の癖や傾向を把握し対応している。入居者が一人で外出をしていると地域の方々も見守ってくれたり声がけしてくれたりホームに連絡してくれたりしている。チャイムやセンサーで入居者を監視してしまうようなことはしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策のマニュアルを作成しすべての職員に周知徹底している。消防署員立会いの避難訓練も行っている。運営推進会議の議題にかけ地域の協力も得ている。2回の定期点検ほかに2回の消防署の点検も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の嗜好を配慮して、献立に取り入れ栄養バランスにも配慮し食事と水分の摂取量を記入している。献立は富谷町の保健所の栄養士が立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のために共用空間を使いやすく設計し、なじみのものや使いやすいもの、季節が感じられるものをおいている。照明や日差しがまぶしかったり暗かったりしていない。適切に換気され臭気や空気のよどみもない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に本人のなじみのものを持ってきてくれるよう働きかけている。それぞれの入居者が自分に適した居心地の良い居室を作っている。入居者の主な持ち込み品は姿見、籐のイス、神棚、位牌、仏壇などである。		